

浪江町健康関連施設整備検討委員会について

平成 29 年 12 月 22 日

浪江町企画財政課

1. 委員会の目的

復興計画第二次の目標を踏まえた介護関連施設、運動施設等、健康に関連する公共施設の配置計画を検討する必要がある。これら公共施設の配置計画は、まちづくりの根幹であり、有識者の知見と、町を支える町民のご意見を踏まえて策定する必要がある。よって、町民と有識者等を交えた委員会を設立し、配置計画案を策定する。計画案は委員会提言として町長に提出する。

2. 委員会における検討の範囲

- ・地域スポーツセンター周辺を中心として、復興計画第二次で定める「まちづくりの核となるエリア」において公共施設の配置を検討する。
- ・旧マリンパーク周辺に震災前に存在した施設の整備について検討する。
- ・キッズパーク等、新しい施設の必要性・妥当性を検討する。
- ・施設整備のスケジュール感を検討する。

3. 施設整備を検討する際の基本的考え方(1) 「目指すべき町」のコンセプト（→復興計画第二次の具体的な実現）**●基本コンセプト：心身健康な人たちであふれるまちづくり**

町民がそれぞれに生きがいをもった生活を営むことで、心身ともに健やかな人達であふれるまちづくりを目指します。そのための公共施設の配置を進めます。

●具体的なコンセプト

- ・介護サービスの充実と介護予防の両立
→例：介護関連施設の設立。周辺施設を使った介護予防サービスの充実
- ・身近な健康づくりによる体力の向上。早々に要介護とならない支援体制整備
→例：地域スポーツセンターの有効活用。体育プログラムの整備
- ・食による健康の維持・管理
→例：介護関連施設（調理施設）や公民館の活用による、健康維持に役立つ食の普及
- ・あらゆる世代の方が健康に楽しく暮らす機会の提供
→例：地区運動会、野球大会の復活。綱引き大会等のイベントづくり
- ・世代をこえたコミュニケーションによる心の充実をはかる場
→例：介護関連施設とキッズパークの併設

- ・ 図書館、公民館等を活用した生涯学習の充実。趣味を活用した生きがい
→例：コスモス保育園の活用
- ・ ふるさとでの町民の交流の場の整備による心の健康・喜び
→例：現在休校になっている学校を活用し、各地域のコミュニティ再生を目指す
(具体例：浪江小学校の教室を各地区に開放し、集会スペースや地域史料の展示施設として活用)

(2) 施設配置の基本的考え方

①集中的配置

「浪江町人口ビジョン」で、2035年に8000人の人口を目標としていることを踏まえ、復興の拠点となる地域を中心に集中的に配置する。

②施設の共用推進

新設が決まっている施設や学校等の共用を進めることで、必要最低限な施設整備にとどめ運営費の抑制をはかる。新設する学校等との一般共用を前提とする。

4. 検討の方法

- (1) 委員会において、施設の復旧方針や全体配置等に関する事務局案を提示し、委員のご意見をうかがう。
- (2) コンセプトを実現するために必要なソフト事業等について意見交換を行う。
- (3) 施設整備の財源、ランニングコスト、運営体制等について同様に事務局案を提示し、委員のご意見をうかがう。
- (4) 運動施設整備のレイアウトに関する事務局案を提示し、委員のご意見をうかがう。

5. 委員会のスケジュール

- ・ 12月22日 第1回委員会 配置コンセプト等、事務局案のご説明 意見交換の実施
- ・ 1月下旬 第2回委員会 第1回委員会の意見交換結果の反映。町長への提言案議論
- ・ 2月下旬 第3回委員会 第2回委員会で提言案が決定しない場合に開催